



川の水のはたらきで、山の形は変わるの

川の水のはたらき

川の水には、けずる、運ぶ、積もらせるという3つのはたらきがあります。川の水が流れるときに、川底や川岸の岩石を、けずるはたらきがあります。これをしん食作用といいます。

川の流れは、小石や土砂などを運びます。このはたらきを、運ぱん作用といいます。小石は、川底を転がったり、はずんだりしながら、運ばれていきます。しん食作用や、運ぱん作用は流れが速く、水の量が多いほど、さかんになります。

山の形は変わる

川の水は土地をけずり、山にたくさんの谷をつくっていきます。何万年、何十万年とたっていくうちに、浅い谷は、だんだん深くなっていきます。

川の上流では、川底のかたむきが急なので、水の流れが速く、しん食作用がさかんで、川底や川岸をけずり、けずったものを運んでいきます。上流では特に、川底をけずるはたらきが大きくなっています。

長い年月の間に、谷がけずられて、両岸が切り立ったがけに、変わっていきます。このように、川の水のはたらきによって、山の形が、だんだんと変わっていきます。

(監修・国司 真)

